Vol. 11

フォーラム通信

2026

Newsletter 11

Topics 浜松市でまちなかの回遊性高める実証実験を実施 約2週間でまちの新たな可能性を探る

中心市街地の「昼間の来街者の増加」や「回遊性の向上」を図ろうと、今月14日から29日にかけて、浜松市が「まちなか実証実験『まちなかWANDER LAND(ワンダーランド)』」を実施します。

浜松市まちなか政策課が主催の本施策は、昨年度の「POP UP FOREST」に続く2年連続の取組で、今年度は県のメンター・柳本茉希氏と浜松まちなかにぎわい協議会が運営・企画を担います。

期間中はエリア内の空き物件が案内所になったり、公園にコミュニティガーデンとコーヒースタンドが設置されたりするなど、まちの資源が新たなカタチで活用されます。

また週末には磐田市の「まちのためのあつまり 口」と連携したマーケットや、リノベーションまちづくりの第一人者であるまめくらし・青木純氏を招いたトークショーなども行われます。

詳しくはHPをご確認ください https://hamamatsu-machinaka.jp/news/57743/



企画・運営　柳本 茉希 氏

「11/14～29の2週間、浜松市主催「まちなかWANDER LAND」を開催します。舞台は、北田町とその周辺です。中心市街地から徒歩約15分のところにあるこのエリアは、住居や小さな個人商店、暮らしを支える施設が集まる暮らしのまちです。

今回のイベントでは、回遊をテーマに「まちの声を聞いてつくる」ことを大切にして企画を進めてきました。まちには、すでにそこに暮らし、働き、活動しながら、日々の営みを支えている人たちがいます。まちの未来を考えるとき、新しいものをつくったり、外から賑わいを持ち込んだりすることだけではなく、今ある場所や活動に目を向け、持続していくための関係や仕組みを考えることが重要です。

まちなかWANDERLANDは、今あるまちを見つめ直し、その場所の新しい使い方や、人と人との関わり方を探る小さな実験です。「WANDER」とは、あてもなく歩くこと。まちの日常に触れながら、自分だけのまちの楽しみ方を見つけてください。」